

南アフリカ通信 Vol.48

ワールドカップは真剣勝負の場だ。だからこそ、サブライズも生まれる。優勝候補のブラジルがベスト4に進めなかったのは驚いた。好調だったアルゼンチンが大敗し、イングランドがベスト16で終わり、イタリア、フランスがグループステージで敗退したことも驚きだった。

筆者は大会前に各国の領事と頻りに顔を合わせていた。強豪国の領事たちは自信満々だったが、敗退してしまった。そんな顔をしているのだろうか。そういう筆者自身も脱力状態だ。デンマーク戦の快勝で、どこまでも行けそうな希望の光を日本代表に見ていたから、バラグアイとのPK戦の後は溜息ばかりついている。

夢で終わってしまったが、もし勝っていたら次はヨハネスブルグで試合だった。ここは南ア最大の都市だが、最も高地にある試合開催地でもある。FIFAのガイド



Gettyimages

ワールドカップで沸き立つ南アフリカ。健闘した日本代表を応援したサポーターは無事だったのか。現地在住の日本大使館領事が最新の情報を直送する。

文・写真◎新保剛

「南ア人に熱狂されたガーナ」



▲デンマーク戦を観戦された高円宮妃が、ヨハネスブルグの日本人学校を訪問し、子供たちと交流。妃殿下は日本サッカー協会の名誉総裁を務める

ブックによれば標高は1753メートル。数字だけではピンとこないだろうが、高地トレーニングで有名なアメリカ・ボルダー市の標高が1655メートルであることを考えると、そこで試合をする過酷さが分かるはずだ。

試合会場はエリスバーク。W杯会場の中で最も治安の悪い地域にある。日本代表が試合をしていたら、日本人サポーターの被害件数も最多を記録したはずだが、無用の心配だった。そんなスタジアムでバラグアイはスペインと戦い、最後に力尽きた。

南ア代表はグループステージを突破できなかったが、アフリカ勢で唯一残ったガーナ代表がこの肩代わりをした。ベスト4には行けなかったが、アフリカ大陸を代表するチームとしてマンデラ元大統領を表敬訪問し、ヨハネスブルグ市内でパレードして、南ア人観衆から盛大な歓声を受けていた。

南アとガーナの距離は、およそ5000キロ。日本とインドネシアくらい離れているが、南ア人のサポーターは、ガーナ代表を地元チームのように扱ったのだ。今大会で、これが一番驚いた。

著者プロフィール ●一等書記官兼領事。06年より在南ア共和国日本大使館に勤務。業務の1つに在留邦人と日本人旅行者の安全対策がある。2010年のワールドカップ期前中、日本人旅行者に安全情報を発信する。

外務省海外安全ホームページ <http://www.pubanzen.mofa.go.jp>
 在南アフリカ日本大使館 http://www.za.emb-japan.go.jp/index_jp.html